



A vertical ruler scale from 0 to 10 inches. The numbers are black, except for the 8, 9, and 10 which are red. An orange arrow points to the 1-inch mark.

文庫
A147

文和元年記
李固清敍
御手書同三滑御忘條之
全



文庫

藤



一

筆と日本書

御本旨間可得御意豫ニ
一
筆と日本書
蘿衣の如きにて今れを繪めしく、又はひよて御被
衣、或筆とそと双指人サリソト大指の脇とよてそとくに於也
筆と手指ウスレト小指トニキラスニテヒレトヨセニテ中指の
下ニカサ子テ中指ノ力ニナシニ、掌より肉ラハ虚ニテ
シテ不捨レバ大指ノ筋とハ立テタルモソラシタルモ見
タム若於ニシテ筆ヲ絞エテハモツギハロノトモよ
く色けり然ハシナリニクギ、松ニシテ後ニハ殊ニシニ
筆もリ至ニワカシミモテ被古ニシルカヒハ作ラ
ムがヒヤサシタタクアシクシハ字もほてる宣ヒ又
筆ヲハシルイカ近キ達者役也

一 漢字中一筆とひがうじアリキ事

少す中一巻ラ一言ニ首尾全を終事ハ之守候之時
二首ナトヲ一覧たゞくお通ね日少極石は書中西教
サハトト心は字テソラニシテ社ヒトモモ遠ヤウ威
ヒテ後次來くニ奥ラモ可有の事は候能祐也ヒテ
シ其於の功モ入は字凡早速ニね似は也

一字勢合事

袖心の時ハ手ヨリモ大殺吉年三事は、由本の文字在ニ
有り又イカニ元あらうハ大アテ筆ホソニ成ニテ是
力無シ、まの勢大ニハ筆ノフトサモキヨリフトクテコリ下
在應レ不經字勢モ筆ノフトサモキヨリフトクテコリ下
御足ニサリたハ漢テニ古ル本ヨリキイサクハ之の程也
一筆ワカイ所要タル事

紙上ニ成字は事ハ能事モ能事ニアラサルモ同事ニテハ
筆セニヨリテ云々ラおるは、真筆はノ松ハ手筆ヲ能
ミテ絶ハテ、二首ハ心得ニあれども實のゆゑは絶句下
入公不論すかアリ、其い付テ字ノ形と筆はトヲ能シハ一筆
ニシテキロ達ヒアルアシノ如ヒ人ハ文字ノ姿ヲ似セシトシハ
其姿ハ似リ、大筆勢ラ、字は字リ、行體め安ニナリ也。
六道モニテハケリ、ヤウ字歌ハ、人ノ書也、能者也。
ノ心操作法ニテアハ、法道ノ學ハ、ノ上ノ不作ニテハ
名只く、古賢のノミトツキニ其名ラニテヒム自然
其道ヲ得シ、屈曲枝屈ノ點ニニカ佐リ、而之を暫代行
法ニシテ筆ヲラレカニヨリカ、桃ヒテ、ノ通は、脚通ヒテ
後、古筆ニシテヒトモ、寄達筆は孔子子ノ詞ニモ七十ニテ
欲スル而ニ及、能ヲ踰ナトテ、ヒモ先ニテ作カセシムの

山極古モヒテ色スルヘクニ歟。

一 古賀筆は事

此筆被石書きの筆毫清り云哉、右二筆へ云那述筆
雅致之處也。細いノ毛も可叶ひ難く、被作終又は一
ケ條也。一肝要也。仍テ試ニ筆ハ彼の而及てテハ可ト云也。
也。古賀筆能筆也。筆ツカイヤウハイツクニモ桂臺もテヨリ
キ不字し筆ヲ主引果以不恐氣云々セ入テアタル不ナリ
の書、わゆニモタゞ本ノれタル本ハ亦有也。人ノ止テ桂。
入テれルべ能ちハ筆ヲキレ不引終也。不恐テトヨロハヌル
不ぬけノ處ニムラ五テ桂ヲ入也。れ能也。さくち物ハ本ナ
ラれを乞ル。ニテ用ノ才キノ五卷一時ヲ下コトニサムラ思。少
多ナル點。筆ミ一懸モアタシル。而もハ一字皆無クニユル。シテ
三ニテ二字ニム。而ハサナカラ皆逸物也。廣クもヒヤハ

浮雲鶴泉ノ勢殊絕也。究極也。姿老松ノ屈曲也。木
立は等能く。正筆也。筆ツカヒハ只色ニテハ義ニ義
考筆ノ圖。ニトガメニ引枯しテハ點ヲ歴ハ枯友トヤテ
以西寫ニテ丁度御心胸に合ひ。方全然也。故ニ
桂臺鬼魄也。入念也。松ニスエヒ。サクハ字勢もどうも
足。色ハ用ラ且是之ニタル故ニテ也

一 級解テ詔テヒシキ姿ヲ可考。事

此道ヲ不知。只ノ不定ノ級ニ通ニ耽ケル。某多々其志
云何ニテ也。必以級解ラ起ス。古筆ヲユテモ在テヒ
ヤカニウツクニキ。不ヲハキモ。達者ノ筆勢ヲ振テ腰も
ノ拘泥タル。而ノ雖及。則トラキ松ヲ希テ。空サントスル也。遂
く。字考本也。其後若空スルより不作ハトモカウモ自至
何ト云タル。云殊體也。毛ヲ無事也。而テハ足エヌキニラト

月はえりやうの似せぬ事一極タテアシクはくよ過し柳
玄年と因ラふ應ミナ一筋ニ西流ニシタカニ西キ而其學
久ノ其學ニ達ヒスル後ハ被自立を窮極ムノ解モニ
任テ後立ニゆれ風流ヲ神トシテ丈ニ風流モ曲ガモ
ウルハモクハモ後立ニゆれが人ハ其神斗ヲ淺ク見本テ
お仙タルト尼^{氏道}ヲおき眼ノニヘアラヌ也ニテハ
イツクシクカントテ是ラワクロイワナキオタレヨワ
クカハユケニコリハ一切イツツクハモニ又強クカントテ是
ヲ紙ニツヨソアテ是ラアラクツカヒハ只根籍ニアレキル
ねニテ文ニ造クハアリシナハ事ヲ皆外乃ノ物ノナトハ
甲ノ道ノ魔藻ニテハシ入ニシ浪山甚寒フヤハハ化法
サトヨリ起ニテ世俗ノ伎藝ニ出ハシテハ聲能絃音曲指歌
何レモノ^ノ法通ノ妙色也ニテハ用意す^シ一切ノ事其理

一
黒板あつめ事

ツハハスハ^シ表サトヨリツニテムサレハ暮羅ノ方法サナ
カヲ實相^シ一理ニテ能之

サニテ餘コトニ要言^シ不^シ能^シ勿^シ怠慢^シ

一
ゆか^シ阿^シ童^ノ人^ハた字^倒字^ウ虚^シ字^寫字^二任^テキ
事ヨニ^シ與^テ浦^山安^シ之^シほ^シキ^シ其^ノ骨^モシハ^シモ^シ
キ^シモテナ^シ我^シ其^ノ在^ニ向^カ字^ニ成^テ本^ノ就^シ
次^ニ成^シ更^正也^シ之^シ計^算は^シカ^ル事^ヲ以^ハシ^シも^シいた
私^ノ更^ラキタ^ルハ^シニ^シ見^シモ^シ往^シま^シ行^カリ
義^解事^ヲも^シニ^ハ考^ハセ^シモ^シも^シ用^ル
ヤスキ^シ事^ヲ其^ノ度^モウルハシク^シ書^シ本^大莫^ナ
大道^ノ至^シア^シ詮^シれ^シ壁^ハ近^クニテ易^シ踏^カシ^カシ^リ、口^本
六^本ラ^シ入^ル人^多也^シ聲^ニ量^シ之^人アリ^シ御^シ是^シ元^シ華^ヲ度^ニ

柿テカ行ノ字ヲ一度見音カ見和高ノ芳名ヲムロウヤサツも乃處マサニ
本ニテハ應天ウエイテンノ家カミノ上ニカケテ **活應**カクヨウノ字ノ上ノ方
既ハシラハ下ヨリ筆ヲ授スルテ後アフタ之シテタル大薩オオサツノ事モノ迄ハシ入メスソ達タツ
ハ後アフタ者モノニ也モストモ大師オオシメの神ミコトニナラハイカテカニ思スル後アフタ
ヲ現セサラントタトヘ能ハシ書スル之モノナラハイカストモ後アフタ者モノ化ハシ及スル
トメ自ゼ身ヒメノ心ハ思スル後アフタ之モノ大カク字シテナトハ時ハシトテ作スル
與スル事モノ又ハシ筆シテノ勢ハシカ出メスルヒ上又ハシ研ハシ字シテホニハ拂スル前ハシ於ク
少ハシ可ス也モ

一真行草字之奉

先竹字アラシニカ字ハリハ中庸ノモノニ近アラムルメ
筆神ア行ニミシヨハリトマニ既ア映シテ草ノ字ノ作
ヲモニ文テ江ニ筆アラ仕レハリノ事ニ仍通用ス舊古
ノタヌニ写ル脚筋ア字ヲ寫テ後まテ元モニ至ル(ま

卷之三

ハシモトニ通手又ハシモトニ西ハムハ二ノ然ラ引ハナシテニ
ニキハムハ元ニテモ色縁ニテノイツキ年中名ハム

一
行經七
日酒。客
至

テ月日ヲ一早付て、之を後ニシテ少復余ハ信努の為
モ以ヒ止ハ未熟の事、ラモ能ヒシル後ヒテ彼ノ至りハ次
考へ、如空乞の威ニサヤウニシテ重テハシラ細ニ下端
ハ不存ラハナ上作也

松古の日常ニテ方々ね字事

社心ノ内ノ事モラハシニハ御モツニリ字ノ形元在ニシム
凡モ意ムニ支ヌルニ生未ハシ阿モクサクス成ヒテ退屈ノ不存
モ歎ヒトニシ自シモ無ニテ只リ久シ體古シニ西又月乃至
十日ヨリシテ又よく歲ハ六度以次之外諸事ニ付キムシテ是ハ

ヨリ仕事ハシメノ如く松通爲めに仕合文ニ引継ましや
カテ一候ハサシミル神ニテハ

一 印刷書物今事

毎日二回二回ナト督の主山海は凡て百機ノ内計等又
経営の機古地づき等に於て此役ある中ニ至る所締ニヒムキ
宣ひは活版古地等ノ活版取附サツミ而力テ功ラ入ハルハ那
三月を度テニ三百日モ之大急ニシテ活版はサテ吾活版
小活版もつとお送り

一 本年ノ月後事

立候ホ等もハトテ初心ノ人之達ニモお送ノヤ面白レ被
主至奥トテ智よりアヌアシタソシニ之候モ町屋等
以ハ等は有出來行トシテ吉敷トハ活版ノ也ニテハ
手本主手風神モハ又お公ノ人所の書籍神モハ

一 本年多大切ノ事

多本過後大切事ニシテ活版學ニ

一 久世多消息ラムキトスヤハ事

過日セキ不セシキハ多く消息ニハ否ニお送ストイハ人而
空ニシテ多く事ニ写ヒ是も候ハ多幸也人ノ事もハ又活版
記テハ被多キカニ思トテ素在ニ能古成テノキモ本色
紙ノ形制浦原文ヲモ活字セニ至ラニ室外、枯焉テ消息
一通ナタラカニキタラニテ其只口、サシアテ消息ヲとの書
ト存れサシヒトニシテラム家歴ノ之セラハハイカニ素古秋松
童ラハハシケニ存シメ復去はラ定テモ安ラモシソヤ
一切夏秋書ノ道文ニ其際活字キタハ似活ラニテ子スルモ太師
之酒ノ活ラサシリ似多紅葉ラサトド極メント字シヘハ
甚極ナキ更ニテハせ當ナシ後塵ニライテモ又因カルソシハ消

息トヤハアナカニ三筆シテノ刷ハスヒスルトキト
シ写ニ貰ノ筆モキニ用スキハ希ミノねニテヒシテ
セシム少法ノ外キニは終ル我ハ消息ヲ学セント祐キノ
キ於キ消息ヲ拾集テ考学シハ文ニ消息ヲモナタラ
カニ不得キシム何ニモニ志ラフカクメ活ヒキラナリハ
ト校考ニタレ多量モニ及ハサテトニリムサスカニシ
キリモ書ハシ切奇宣ハシ経去ニテハサトモ消息一通ト
ノ兄若カラス於キムハムヨリ消息ヲト立ヒハ消息ヲ
モニキ半活ヒシ子ノ用ニ法ヲ上ニトル左ニ為中はラ申
久故ニ下名更ラヒトヤテハモ世ニバトテ性承ナト
古ハ只ノキ狀ナトニハシ御筆ヲモ刷テヨリヒタ夫モ消
息ニテは古イカニモ活キノ相ニハ筆仕モ留ヒタリハ上ナ
モ申シ實是筆ハ皆文集清本ニテハ消息ヲトトテ

久ルハイタクニ尼ム也

一 洋筆事

洋筆者ニ底無筆宣ハシ洋筆シテ筆ニ六字ノ紙
モニ紙以テ中ノ右端ノ紙之の宣ニシテ筆ヲ用意料紙張
タキ赤錦ニハシノ毛只ノ筆ニハ麻毛ニテハ檀筆ニハ毛枝
ホニハ支毛後ニハ支毛布ニハ木筆桿ハシケニ作ヒシテ古ハ多
用支毛一切ニ通用シ首ノ支毛ハ殊種ヒ而セハ支毛ワロクノ成
テ許サキモハス迄抱ニテハ仍テ校系ノ外ハ只兔毛ヲ通用
宜ハシ方筆毛モワロク筆ニ又ラ作ノ方角セハ首キ筆
曾テ之作也

一 洋墨筆

洋墨古ニ五代墨ニシテ西漢ヒ唐墨高セ希ミヨミ頗ル少
者ニハ枝墨ニ似墨也其筆之色正白ハ上品ノ墨モヤカテ損シテ

諸物ニ於クニ宮殿シテ金精ノ入常ニ威ハ

一 勘科常事

御内中より直に植紙を送るも物はず紙能ひる常ニ何ヲ可役用シわゆる時ハ常ニ年付以はる第ニハ辛ニク、御経の六何第ニモ也

一 入木薦本殿ハ主祭記リタル事

法法大師入唐之時王宮に墮て字正義之筆一間破損後辛喜仁國ニ上仰奉初吉晋代ヨリ唐鈔ニタルニテ久経先後テ被真訖又通風うね又ニモ万里ノ波濤ヲタテ、高唐圓ニ旅ストキタリ文向匡衡カ文ホニモ世間ラニ載爾後如世道而終後承ノ令下トニ度ラ依ニ後既至真和の風ワ移トイ(天子詔ノ年ハ唐年ノ況絶テ而用之近本以來四萬年ニ度訓古後不傳ミ外徳既ラニ用立)迄テ近本

高鈔ニ多シ地神少シ於焉セ文字ニテ字高鈔ニ音神ヲ模スル方或ハニ安ノ信弟或ハ緯首院首号ノ願是神ニテ於辛ニ又舊曰ハ旧盧六府如比世寫の約束ヲ抄也ノ字那利之聖者ニモハ此抄也ノ字多キ、菩薩ハササ苦提ハ苦本ハ修ニ抄也ノ外ニ辛ニ布然ハ毎年以ラ逐テヨハラニミ是然ハ終之代舊而風ヲ改テ高河ノ風俗ヲ流布セシムナ葉種モ皆改ルハ祖ノ作始モ古今辛夷ハ御鈔ハ奥松力葉師寺顕ラキテ色能書フ用ルニテヨハニ五事ト門名して今尼ニニ卦ニ子ヲコトニ御ニ言説之御ニ其葉船モ只南世ニ達ス其後至聖天皇朝矣信正光の皇后中野雖南庭受多ヒ法大師淳成天皇禱ノ逸勢敢行義杖等アリテノ旨一神葉種ハ次火ニタオレタル本也、
其後聖廟招死ニ至爾以後小所にて風古続々世慶ハ

參神をあひタリ、代理道成ハ右風力神トニ安喜ニ聖徳院
法院院主ノ三賢ラ、末代ノ今ニテ世道ノ規範トメ好
事ノ而く彼達凡ラ様ノ仍中野ノ風ハ云ね者

一 東野一族也氏時代ニ付テ筆法を事

法法大師ニ嘉慶ノ手法大略一松右風以後又名野法力
風近似也、左風力法ラ写トヨ、尼御又残妙ラ手出セリ
其後ニ一系院ノ脚代コリヘ至白河鳥羽、時代近徳書モ
絶筆書モ皆以爲力風神、後は奇入道出隊、後又天下向け
松成力カリ又後白河院筆、時分如比刻後京極源政
お終之宮源は風也、後淡城院以下とて神、其寫用
之毛色モルハ法性寺圓白經風、法性も實白ハ又於法ラ
摸凡ニ体見院之序筆、迎至天下感し奉極號號中佐
良一向天授、此假名モ法性寺圓白筆称念、圓白ノ筆

一 稲手ノ役用事

脚ノ毛ラ被摸テ右天骨ニテニ在出焉ハ、伏伏ラ被摸毛
毛写、次第成来名故有山川劍幸也、御中出之、竹成力漫
亂ハ皆經法ラ、写來御寺筆神ラ、又役用事、代寫ニテラ、資
二書ノ名松ニテ、多大其意ハ、令行成也、同也、文ニ呈風ラ、
文ノ竹種也、筆今も竹太と殊内姿、能く写於也、
一 稲手ノ役用事

上古ニハあラキハトテニ在太後年等ニ御筆甚也ノ之全
ニモユルサレ又朝家ニモ役用も書役も役作也ニ成ラ能キト
ハ役ト、又は小御少也、毛写ナレ、其内在猪し各々全
才ニラサレテ、全各各ニ毛モヒテ、公仕合ハ筆猪ナシト、役成
ハ役部同附ナル也、モ書用我モ早下メテ、字ナシ役其子宣
农仁ノ父、書乞也、毛写ナシ、役成也、役群也、ナケレハ宣模
ハ、門額以下多達也、役筆書、當年毛モニテ、是す矣年元

右之事之初公以摶古之謹要之書以使外事少嘗學之
寫序亦寫之付之うどよし又乞紙形以下乃至顧本草
追而下下上本か抄之奉ハ通ノ大幸ニシテ口傳フ更
ムシテ入本さく下得ムル上二六中ノアキ本は此花

モニ佐ニナヘテ摶古ラ沙佐安子志水也カタキ幸ニテ迎

文和元年十一月十六日 以下下云々

主上御手書奉申る所摶古每事下計中令由松
被仰下達 仍房朝臣行尹公等口傳支等不子等
行五ヲ篇贈百事書之文等之外是省也

此一條を大幸院贈一不言門法親王
所筆也此時

主上と申奉ハ

後光孝院御奉申すまゝ入未通參照焉もろき

保津夏津記

